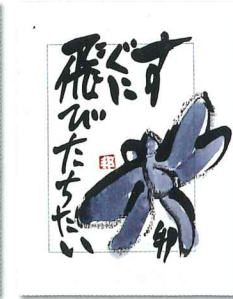
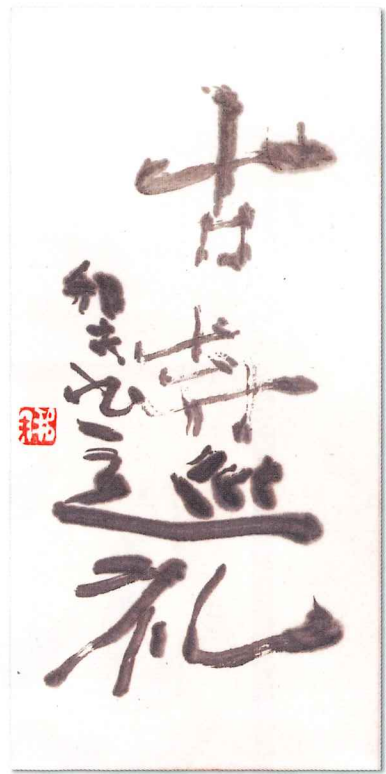


小池邦夫 追悼 絵手紙展

令和6年 5月29日 [水] - 7月1日 [月]



『銀花』未発表の絵手紙 (上)



山形の土門拳記念館で撮った写真を見て「書きたくなった」と言っ
書いたのが、亡くなる一週間前のこと。最後の一枚となった。

アクセス

- 電車・路線バス：JR 大月駅から富士急行線「富士山駅」下車、内野行きまたは平野行きバスにて12分「忍野しのびの里」下車。
- 高速バス：新宿バスターミナルより忍野経由・山中湖行き「忍野しのびの里」下車、または山中湖・平野行き「忍野入口」下車徒歩15分。
- 自動車：東富士五湖道路「富士吉田忍野スマートIC」より5分または「山中湖C」より10分。中央高速道「河口湖C」より15分。



四季の杜おしの公園

小池邦夫絵手紙美術館

(岡田紅陽写真美術館併設)

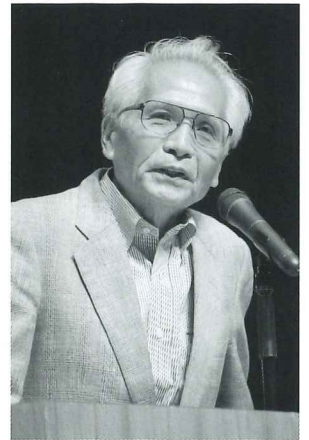
〒401-0511

山梨県南都留郡忍野村忍草 2838-1

TEL. 0555-84-3222 FAX. 0555-84-3320

<https://oshino-artmuseum.com>

絵手紙の創始者・小池邦夫は、「一人の心を感動させる手紙は万人をも動かす」という信念のもと、一枚のハガキの中に詩・書・画、三位一体の表現世界を創り出してきました。1978年に『季刊・銀花』で六万枚の肉筆絵手紙を発表して以来、絵手紙人口は増え続け、今や誰もが知るものとなりました。情報化社会の現代においても小池の提唱した絵手紙は日常に溶け込み、人々の共感を得続けていくことでしょう。



本展では初期から晩年までの小池と絵手紙の歩み、また、「小池邦夫を偲ぶ会」(2024年2月、狛江市主催)に寄せられた献花絵手紙を一部展示いたします。

小池邦夫 (こいけ・くにお)

1941年、愛媛県松山市のミカン農家に生まれる。1960年、東京学芸大学書道科に入学。1961年、中学時代からの友人・正岡千年氏に宛てて手紙を書き始める。1978年、季刊『銀花』(文化出版局)の企画で絵手紙6万枚をかく。1985年、日本絵手紙協会設立。2004年、小池邦夫絵手紙美術館が忍野村に開館。2009年、上武大学の客員教授に就任。2015年、日本絵手紙協会名誉会長に就任。2020年、狛江市名誉市民に選ばれる。2021年、文化庁長官表彰受賞。2022年、松山市文化スポーツ栄誉賞受賞。2023年8月31日死去、82歳。